



海外グループ会社における 「重点課題」への取り組み — ヨコハマタイヤフィリピン —

YOKOHAMA RUBBER
CSR REPORT 2012

特集 2

横浜ゴムグループは、グローバルな事業展開の一環として、各地域において環境保全や従業員の職場環境整備など、重点課題に沿ったさまざまな活動に取り組んでいます。ここでは、フィリピン、ルソン島中部のパンパンガ州に位置するヨコハマタイヤフィリピンINC.(YTPPI)の例をご紹介します。

安全健康な職場環境の整備

従業員が安心して働ける、安全で衛生的な職場環境を守ることは、従業員の会社への帰属意識を高め、結果的に社会に提供する製品やサービスの質を向上させることにもつながっていきます。YTPPIではその認識の下、従業員とその家族が心身共に健康な生活を送れるよう、さまざまな形でサポートを行っています。

2010年度はアジア地域でのインフルエンザ発生率がほかの地域に比べて高いことに着目し、従業員へのインフルエンザ予防接種を実施。2011年度は従業員とその家族、1,830人に接種を行いました。社内でのインフルエンザ流行を防ぎ、従

業員の感染による欠勤を減らすことを目的としています。

また、2011年度からは女性従業員を対象に、子宮頸がんのワクチン接種の取り組みも開始しました。子宮頸がんは、若い女性の罹患率が高い病気ですが、ワクチンの接種によって予防することができます。2011年度は、101人の女性従業員がワクチンの接種を受けました。それとともに、子宮頸がんの原因や予防法への理解と意識を高めるための啓発にも力を入れています。

今後もこの予防プログラムを継続的に実施し、従業員やその家族の健康に影響を与えるさまざまな病気を防ぐ考えです。



インフルエンザの
予防接種

台風被害を受けた地域への支援

2011年12月、大型台風センドン（国際名Washi）がフィリピン南部のミンダナオ島を襲い、大規模な洪水や地滑りが発生し、死者・行方不明者合わせて1,500人以上という大きな被害を出しました。これに際して、YTPIでは従業員が率先して被災地域への募金を行いました。

以前から、YTPIは「Show you care, Give a Share」プログラムの下、従業員からの募金を使い、従業員参加型の地域貢献を推進するような支援活動を行っており、多くの従業員がCSR活動に積極的にかかわってきました。今回は、ミンダナオ島における台風被害の甚大さに衝撃を受けた従業員らが自ら被災地支援のための寄付呼びかけを提案。従業員1,948人中、573人が現金、薬品、衣料などの寄付に応じました。また、YTPI主催のクリスマスパーティにおいても、寄付を呼びかけるブースが出され、ここでも寄付が集まりました。

最終的には、地方政府を通じて、被害のひどかった都市の一つであるイリガンの住民に17,000錠の薬品を提供。また、現地法人のクラーク開発公社の協力により、ミンダナオ島全体で中古衣料27袋分を配布することができました。現金による寄付も106,040フィリピンペソ（約20万円）にのぼり、フィリピンの最貧困層のための住宅や持続可能なコミュニティの建設に取り組む現地NGO「Gawad Kalinga」へと贈られました。今後、台風被害で家を失った人たちの住宅建設支援などに使われる予定です。



台風被災者支援

環境負荷低減に取り組むEMSチーム

事業の一部として取り組むべき重要課題である環境負荷の低減についても、EMS(Environmental Management Section) チームが中心となって、さまざまな取り組みを進めています。

廃棄物のリサイクル・リユースにも力を入れており、現在では通常ごみとして捨てられていたものの約88%がリサイクルやリユースに回されるようになりました。例えば、不要になった廃タイヤは、地域の市民グループに寄付（2011年11月から）。スリッパやポット、フェンスなどの材料として再利用されています。また、ラベル台紙も地元の女性グループに寄付され、バッグや写真フレームなどを編む材料として用いられるようになりました。さらに、使用済みの鉛電池についても、フィリピン最大の総合メディア会社ABS-CBNが設立した基金「AFI」に提供。AFIはこれを、リサイクル会社を通じて現金化し、その利益を環境保全への意識向上を目指すプログラムの運営基金に回すという仕組みになっています。

また、持続可能な発展や環境保全についての地元の人々の意識向上に貢献するため、地域の学校における環境教育プログラムを展開してきました。子どもたち



ラベル台紙から作ったバッグ

が環境保全に必要な知識やスキルを身につけ、コミュニティの、そして社会全体の持続可能な発展に寄与できるよう、「環境」をテーマとしたオリエンテーションを実施しています。

2011年度は、地元のマラバニラス小学校およびセバン・バト高等学校から合計200人の生徒を対象にオリエンテーションを実施。そこで得たごみ分別などの知識をすぐに実践に移せるよう、リサイクル梱包資材を原料としてYTPI内で作られたごみ入れも贈呈しました。参加した生徒たちが学校に戻った後、身につけた知識やスキルを周囲に伝えていくことで、コミュニティ全体にも良い影響がもたらされると考え、同様の活動を継続していく予定です。



マラバニラス小学校



セバン・バト高等学校

植樹による環境保全にも積極的に取り組んでおり、事業所のあるコミュニティだけではなくその外へも活動を広げていくことを目指しています。2011年度は、5月に地元のシニューラ小学校で、生徒や教員らはYTPIのボランティア従業員と共に苗木100本分の植樹を実施。7月にはフィリピン軍と協力してアラヤット国立公園で苗木600本を、10月には聖ロザリオ小学校の生徒たちと共に、ルバオの町で苗木100本を植樹しました。

これらの苗木は、横浜ゴムグループが国内外で展開する「千年の杜プロジェクト」で育てられたもの。今後、より広い範囲で植樹活動を展開し、さらなる環境保全への貢献を目指します。



植樹活動